

2月6日

テーマ：「<sup>しんじゃ もほん</sup>信者の模範となりなさい」

聖書箇所：<sup>てがみだいいち しょう せつ</sup>テモテへの手紙第一 4章12節

◆今日のみことば

<sup>とし わか</sup>年が若いからといって、<sup>かる み</sup>だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、こと  
<sup>たいど あい しんこう じゅんけつ しんじゃ もほん</sup>ばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。

<sup>てがみだいいち しょう せつ</sup>テモテへの手紙第一 4章12節

◆メッセージ

ルステラという<sup>まち</sup>町に、テモテという<sup>しょうねん</sup>少年がいました。テモテさんの<sup>かあ</sup>お母さんはユダヤ人でしたが、<sup>とう</sup>お父さんはギリシャ人でした。シナゴグという<sup>がっこう</sup>学校に行くと、「おまえのお父さんはユダヤ



<sup>じん</sup>人ではないから、この<sup>せかい つく</sup>世界を造られた<sup>ほんとう かみさま し</sup>本当の神様を知らない。だから<sup>にんげん かんが て つく かみ おが</sup>人間の考えた手で造った神さまを<sup>たち じん</sup>拝んでいるのだ。ぼく達ユダヤ人は、この<sup>てん ち つく</sup>天と地を造られた<sup>まこと かみ れいはい</sup>真の神さまを<sup>い</sup>礼拝しているのに！」と言われ、いじめられました。

テモテさんは、くやしくてたまりませんでした。すると、ユニケお<sup>かあ い</sup>母さんが言いました。「お<sup>ともだち い</sup>友達の言うことは半分<sup>はんぶん</sup>あたっているわ。手<sup>て</sup>で造った<sup>つく かみ</sup>神さまなんて、<sup>つく</sup>どんなにピカピカに造られていても<sup>いのち</sup>命がないのよ。でも<sup>ほんとう かみ</sup>本当の神さまは、この<sup>せかい にんげん つく</sup>世界と人間を造って<sup>くだ</sup>下さった方よ。ロイスおばあちゃんはその<sup>かみ</sup>神さまのことをとても<sup>よ</sup>良く知っていて、お母さんも、おばあちゃんからよく<sup>せいしょ はなし</sup>聖書のお話を<sup>き</sup>いっぱい聞かせてもらったわ。」

それからのテモテさんは、<sup>ほんとう かみ</sup>本当の神さまのことをもっと知りたくて、おばあちゃんとお母さんから<sup>せいしょ はなし</sup>聖書のお話を<sup>き</sup>いっぱい聞きました。やがてテモテさんは大人になり、<sup>おと な</sup>神さまのことを伝える<sup>かみ</sup>働き人のお手本になりました。あの有名なパウロ先生からも愛され、たくさん

のことを<sup>おし</sup>教えてもらいました。そして<sup>か のこ</sup>書き残されたのが、この「テモテへの<sup>てがみ</sup>手紙」です。パウロさんは、<sup>わか</sup>若いテモテさんに、「<sup>せいしょ</sup>聖書のみことばに<sup>したが</sup>従うお手本になりなさい。」と<sup>はげ</sup>励ましました。みことばに<sup>したが</sup>従うのに、<sup>ねんれい かんけい</sup>年齢は関係ありません。<sup>おと な</sup>大人だから<sup>したが</sup>従うことができるのではありません。子どもの時から<sup>したが</sup>従うことができます。<sup>せいしょ</sup>聖書のことばには、<sup>いのち</sup>命があり、<sup>おと な</sup>どんな大人のことばよりも<sup>ちから</sup>力があるので、<sup>かみ</sup>神さまを<sup>あい</sup>愛する人々の<sup>ひとびと</sup>お手本になることができるのです。



<sup>ちい</sup>小さい時から<sup>せいしょ</sup>聖書のことばを知ることができるのは、なんと<sup>さいわ</sup>幸いなことでしょう。テモテさん<sup>ま</sup>に負けないようにがんばりましょう！

◆お祈り

「<sup>せいしょ</sup>聖書のことばによって、いつも私に<sup>ちから</sup>力を<sup>あた</sup>与えてください。アーメン。」

(支援教師 吉持節子)